



2018年 2月2日 金曜日
(平成30年)

知・技の創造

ものづくり大学発

▷33◁

近年橋梁工事などで使用される 大学で講習会を行っています。そこで、現在は表層コンクリートの品質に大きく影響を及ぼす養生方法を研究しています。是非参加してみてください。 ぼす養生方法を研究しています。養生の効果は使用するセメントの配合、養生方法、評価方法、適切な養生、評価方法、す。養生の効果は使用するセメントの配合、養生方法、評価方法、適切な養生、評価方法、す。

沢本武博 建設学科教授

コンクリート構造物の品質



さわもと たけひろ 東京理科大学理工学部土木工学科卒業、同大学大学院博士後期課程修了、博士(工学)。若築建設株式会社、東京理科大学助手を経て、2005年ものづくり大学着任、16年より現職。

良いコンクリート構造物をつくるため、長持ちさせるためには、コンクリート構造物の品質管理が今以上に重要になってきます。そのため、新しい技術の開発や技術者の育成、さらには子供の頃からコンクリートに興味を持ってもらうことが大切です。

■新しい強度管理技術
現在、コンクリート構造物の強度管理は、一般的に管理用の体(Broken off Specimens)の圧縮強度を用いる(Breaking by Splitting)を規格化して行っている。毎年ものづくり

質を評価する方法として、透気試験が行われるケースも増えてきました。透気試験については国内に規格がなく、スイス規格を運用しているケースが多いです。現在、実験を重ねデータ収集を行い、国内での規格制定に向けて取り組んでいます。

■簡易な塩害調査方法
埼玉県内では比較的少ないですが、沿岸地域では飛来塩分、山岳地域では凍結防止剤による塩害が問題になっています。現在、学園祭や埼玉県内のイベントでコンクリート断面に硝酸銀溶液を噴霧するだけで、塩化物イオンの浸透状況が目で分かる技術です。この講座は、子供たち

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せください
TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040
E: keizai@saitama-nd.co.jp